

記念講演 第2部 講師紹介

佐野ガバナーより講師のご紹介が行われました。

リシャール コラス様はフランスのご出身です。

在日40年を超え、鎌倉市長谷に在住です。

1975年 パリ大学東洋語学部を卒業され、在日フランス大使館 儀典課（東京）に勤務されました。

1985年 シャネル株式会社 香水・化粧品本部長に就任された後、

1993年 シャネルリミテッド（香港）マネージングダイレクター

1995年 ハーバード大学のAdvanced Senior Management Programに参加された後、

同 年 シャネル株式会社社長に就任され、現在に至っております。

1999年 在日フランス商工会議所会頭就任（2年）

2002年 欧州ビジネス協会（EBC）会長就任（7年）表彰としては、

1999年 国家功労勲章シュバリエ 受章

2006年 レジオン・ドヌール章 受章

2008年 旭日重光章 受章

2013年 第六回赤いバラ大賞 受賞

2014年 国家功労勲章オフィシエ 受章

など、輝かしい章を多数、受章されています。

また、2006年 初めての小説「遙かなる航跡」を出版したのを手初めに、日本語著書も多数あります。

本日のご講演では、フランス文化と日本文化を比較した興味深いお話を流暢な日本語でお話しして下さると思います。

皆様と一緒に私も楽しみたいと思います。

それでは、よろしくお願い致します。

記念講演 「フランス人から見た日本文化のあれこれ」



シャネル(株) 代表取締役社長

リシャール コラス氏

私は日本とのお付き合いは非常に長いです。17歳の時に初めて日本に来ました。その時に、自分は日本で自分の人生を送るのだと思いました。

日本に来た理由は高校を卒業して大学に入る前、父に「大学に入ると勉強に忙しくなり、働き始めると仕事に忙しくなるから、今のうちにどこかへ行ったらどうか」と言われたからです。私の父はエールフランスのパイロットで、1950年代に日本に何回も行っていて、とても印象的な国だと言っており、母も日本をとて気に入っていました。

私は昭和28年生まれです。当時はパリから日本まで飛行機で27時間かかり、直行便はありませんでした。モスクワ経由も無く、南ルートでテヘラン→パキスタン→香港→日本（東京）でしたが、各国で泊まったりして、往復で一カ月かかりました。

1964年の東京オリンピックの映画を1965年に観て、首都が東京であると知りました。フランスの雑誌に入浴剤の広告が載っているのを見ました。それはお風呂に入れる錠剤でした。日本のお風呂、日本髪を結い上げた

美しい日本女性、富士山に桜、泡のあるお湯が載っていて、私もこのようなお風呂に入りたと思いました。11歳の時でした。

13歳の時に写真が大好きでカメラマンになりたいと思っていて、良いカメラが欲しいと父にお願いをしました。父には、「まだ早い、本当に欲しいのであれば、アルバイトをして買いなさい」と言われたので、一生懸命アルバイトをしました。そのアルバイト代を父に渡して日本製のカメラ、今はありませんが東京光学という会社の「トップコン」のカメラを買ってもらいました。政界のジャーナリストは「ニコン」を使っていました。ベトナム戦争の時代の事です。

なぜ父が私を日本に行かせたのかと言うと、父はパイロットとして色々な国に行っていましたが、日本は伝統、文化を守りながら未来へ飛んで行っている国だったからだそうです。1964年に新幹線が走りました



し、エレベーターに乗ると、ボタンではなく、ただ触るだけでその階へ動く事に父は驚いていました。

日本に来る前にフランスのJTBへ行き、「私は日本に旅行に行きたい、できるならホームステイしたい」と言いましたが、JTBの社員に「日本人は外国人にはなじめない、日本でホームステイさせてくれる家族はいない。行かない方がよいよ。どうしても行きたいならYMCAでも利用したらどうか」と言われました。しかし私はアメリカ人が経営している所ではなく、ホームステイがしたいと思っていました。すると、3カ月を過ぎた時、父が東京に泊まれる所を見つけたよ、と言いました。当時のエールフランスには日本人のステューデスが勤務しておりましたので、「私の息子が日本でホームステイをしたと言っているけれど、日本にはホームステイのようなシステムは無い、と言われて困っています」と父が話をすると、「それでは、私の知人を紹介しましょう」と言ってくれ、結局、日本に来てユースホステルやYMCAに一度も泊まらずに済む事が出来ました。その途中で出会った人とすぐに友達になりました。パリに帰った時、JTBの社員に「おまえらは嘘つきだ、日本人は日本語が話せなくてもとても親切だった」と言いに行きました。コミュニケーションも図れましたし、こんなすばらしい国民、人間、日本人に出会い、これから日本で生活するための勉強をしようと、この時から思いました。もう一つ日本に行き来できた理由は、父がエールフランスに勤めていて、その息子は飛行機代が無料だった事です。友達と会う電車賃よりも、飛行機代の方が安かったのです。

日本に来た時は最初に必ずホームステイをした家族(第二の家族、第二のお母さん)の所へ行きます。東京の家族は私の第二の家族だと思っていますので。

私はカメラが大好きで、日本に最初に着いた時、ニコンのF IIを買いに行きました。2台目のカメラで、今でも大事に持っています。なぜそんなに日本が好きなのかというと、日本の人間に惹かれ、特に日本の女性は美しいと思ったからです。国を作る、国を活かすのはそこに住んでいる人たちです。50日間日本にいた時のとても素敵なエピソードがあります。

ホームステイ先の家族に私より5歳年上のお兄さんがいて、フランス語が話せました。その彼に、「あなたは小さい頃、日本について何を知っていましたか」と聞かれ、最初にお話した事を話しました。すると土日はスケジュールを空けておきなさいと言われ、ドライブに連れて行ってくれました。お風呂から富士山と桜が見える旅館を探してくれ、桜はピンクで作ったものを窓の外に飾ってくれました。私のイメージに近い事を考えてくれたのです。日本人は優しく、すごいなーと思いました。



もう一つのエピソードは、日本に来て40年たった時、「遙かなる航跡」という小説を書きました。その中に、ニコンのカメラを買いに行った時のエピソードが書かれています。ホームステイ先のお父さんは日銀に勤めていました。ある日、明日は車が迎えに来るので私と一緒に出掛けましょう、と言ってくれました。車の運転手さんは白い手袋をしていて、迎えに来てくれた人はフランス語がとても上手でした。ニコンの工場に連れて行ってくれ、見学をさせてくれました。工場の前には日本とフランスの国旗が掲げてありました。社長は、私がカメラ好きでニコンのF IIを持っている事を知り、御礼を言いたくて会ってくれたのです。もちろん私はF IIのカメラを持って行きました。15年前、このカメラが壊れてしまい修理に持っていった時、部品がないので直せないと言われ、大変ショックを受けました。そのカメラをニコンの社長とお会いする機会があり、お見せしたところ、社長が持って行ってしまったので、部品は手作りで作り、1カ月後にカメラは直って私の所に戻ってきました。お会いした時の食事の後、私からシャネルの小さなプレゼントをしました。すると社長から私にもプレゼントがあると言われ、ニコンのD100というデジタルカメラを下さしました。とても嬉しく思い、次はトヨタの事を書こうかな…と思いました(笑)。

40年以上日本にいて、日本の良い所をたくさん知りましたので、フランスに帰った時は必ず日本の良いところを話します。私の妻は日本人です。フランスで「日本の女性は男性の一步後ろを歩くとされています」と聞かれ、「一步後ろを歩いた方が男性をコントロールしやすいでしょ」と答えています。

40年住んで飽きないのかとも聞かれます。日本に住んで40年が過ぎても日本の表面だけしかわかりません。ほんの少し分かっただけなので、100年、200年住んでも全部は分からないと思います。日本の文化はものすごく深いです。日本を知ろうとする事は飽きる事はありません。

せん。

私は鎌倉の大仏のすぐ裏に住んでいます。13年前に父が亡くなった時に、日本で家を買って、日本でリタイアして、一生日本に住み、日本で死にたいと思いました。妻に東京に住みたいですかと聞かれましたが、私は日本の家屋、一軒家に住みたいと思っていました。時間があると金曜日の夜の新幹線で京都に行き、時間がない時は日曜日、鎌倉に行くのが楽しみでした。

鎌倉で骨董品屋さんに出会い、色々なものを見せて頂いたり、説明をして頂きました。私は根付けが好きだったので、珍しいものがあると私にくださいました。私の思い出として差し上げますと言って下さり、お代を取りませんでした。今も15個、素晴らしい根付けを大事に持っています。

鎌倉は素晴らしいところだと思います。鎌倉に住む事にしました。家は日本家屋で茶室がある家を考えました。妻の祖母は鎌倉でお茶の先生をしていて、妻はいつもそばでお茶の手習いを見ていたそうです。

伊豆に大きな家を持っている日本の友人がいましたが、その家を売らざるを得なくなりました。家もですが、「家の中の家財道具はどうするの」と聞いたところ、「捨ててしまう」と言うのでびっくりしました。日本人の悪い所で、古いものを皆捨ててしまうのです。

私はその昭和初期の家が全部が欲しかったのですが、家の中の物で欄間、障子、照明器具等をもらいました。運送会社の人は、小さいものだけと言っていたのに…と、嫌な顔をされました。鎌倉に運んで行った時、妻に「これらをどうするの?」と聞かれました。私は「茶室を作るつもりでしたが、遠くから、特に外国から来た友達に少しでも純粋な日本の生活を味わってもらいたい、と考え、客間、お風呂、書斎も作り、約40坪になってしまいました。縁側をつけ、伊豆から持ってきた欄間、障子も使い、宮大工さんが半年かけて作ってくれました。その仕事を見て、また日本の家屋の素晴らしさを新たにしました。足りない材料を宮大工さん、建築家、私、妻の4人で新木場に出向き選びましたが、私の思う物は予算よりはるかに上回ってしまい、建築家の人と話をしていたら、木材屋さんが「この外人さんはものすごく知識があるので、まけてあげるよ」と言って下さり、安くして下さいました。そのおかげで、素晴らしい茶室ができました。出来上がったので「釜入れをしてほしい」と妻に言ったところ、妻は「茶室が出来ただけで釜入れなんてできません。全部そろってないではありませんか」と言いました。「茶ジャクも茶碗もあるし、釜も17世紀の末の物があるではありませんか」と言いましたが、「まだ

あれもない、これもない、そして私はお婆さんから習っただけでちゃんとした事はできません」と言って、釜入れをしてくれませんか。釜入れをしていない茶室なんて魂のない人間と同じではありませんか。仕方なく、東京でお茶の教室を開いている裏千家の偉い先生のお教室で、毎週月曜日の夜に2年間、勉強をしました。驚いたことに、18時~22時まで、自分が習っている以外の時間はずっと、じーっと人のやっている事を見ているだけでした。しーんとしている中で、お茶はただおいしく入れるだけではないな、お茶を習えば習うほど奥が深いな、と言う事に気が付きました。40年前に来た時からお茶の勉強をしていたら、もう少し上手にできたのかな…。私は私なりにお茶を点てていますが、まだ釜入れはしていません。妻は私が一生懸命やっていることを知っていますので、いつか釜入れをする日が来ると思います。鎌倉にお住まいのロータリアンの方々、その時はお越しく下さい。

日本の文化の深さ、美しさは奥が深く、いくら掘っても行きあたらぬ。そこが日本の美しさだと思います。

私の今日のタイトルの「日本文化のあれこれ」の“あれ”と“これ”は何なのだろうか。フランスはシルク産業が日本と同じように盛んでした。鎖国時代からの行き来があり、フランスの蚕が病気にかかりどんどん減っていった時、日本の蚕はとても強い、と聞き、フランス人が日本に来てシルク産業が盛んになりました。明治維新の前からです。日本のお陰でフランスのシルク産業は発展しました。日本のシルク産業から沢山学ぶ事があり、ルイ14世の頃から、布作り、色染め等、非常に参考になったようです。このような事からフランスは日本の文化に興味があったのです。

5年前の話ですが、我々のデザイナーが、3月11日の大地震で津波が来て大変なので、少しでも日本を応援するために、2012年の春に大きなファッションショーをできるだけ自然な環境の中で開催したい、と言いました。東京で自然が残っているのは皇居が新宿御苑しかありません。新宿御苑にアプローチした所、「ありえません、150年前から総理大臣の春の園遊会、11月の菊の見学会、天皇陛下のセレモニーに使用するだけで、明治維新以降、プライベート企業、外資系企業にはお貸していません」との事でした。私はフランス人です。ノーと言われると、どうしても何とかしたくなります。友達にこの話をしたら、宮内庁の一番偉い人と友達だから、会いに行きましょう、と言ってくれ、宮内庁に伺いました。すると、新宿御苑は環境省に委託している、との事で、宮内庁から環境省に電話をして下さいました。新宿御苑の全体の航空写真を見ると、左側の方にフランスガーデンがあり、そ

の横に大きな広場があり、イングリッシュガーデンと日本庭園がありました。なぜフランスガーデンがあるのか、と聞くと、明治維新の後の最初の万博で、日本の庭師2人がフランスに渡り、菊の大作りを展覧したそうです。船の上で苗から育て、フランスでちょうど良く咲く様にしたのだそうです。そしてフランスに6ヶ月もいるのだから、日本に無い木や花を持ち帰ってくるように言われていたので、ベルサイユ宮殿に行き、日本にフランスの庭園を作ってほしいとお願いしました。フランス人の庭師がデザインし、日本人の庭師はフランスからバラを持ち帰り、フランスの庭園が出来たのだそうです。150年前の話です。その後、ベルサイユ宮殿との交流は無いと言うので、「もし私たちが交流できるようにしたら、ファッションショーを開催させて頂けますか」と伺いました。すると、良いです、イエスと言いました。まさかそんな事が出来ると思わなかったので、イエスと言ったのだそうです。

その時は12月でしたので、「翌年の2月にベルサイユ宮殿から協定書を取り交わしに来ますので、ご用意して

お待ちください」とお願いしました。フランスの庭師はフランス庭園作りを日本の庭師に指導し、日本の庭師はフランスの庭師に菊の大作りを教え、お互いに協力し合って素晴らしい庭作りができました。

文化のあれこれの中で、これが一番好きな話です。これからもフランスと日本はどれだけ協力し合いながら素晴らしい事が出来るのか…、と考えます。

